



年 組 名前

道新 ワークシート

ラッコ見物マナー守って

霧多布岬

【浜中】釧路管内浜中町の霧多布岬でラッコを見物する観光客らのマナー違反を減らそうと、ラッコの調査・保護に取り組むNPO法人エトピリカ基金（浜中町、片岡義広理事長）と町が共同で、「観察ガイドライン」を定めた。同基金はリーフレットも作り、周知を図る。

（山村晋）

浜中町とNPOがガイドライン



ラッコ観察ガイドラインを記載したリーフレットを手にするエトピリカ基金の片岡義広理事長

遊歩道内・船で近付かない

霧多布岬はラッコの繁殖地で、近年、ラッコ目当ての観光客やカメラマンが増加。遊歩道の外に出たり、柵を乗り越えたりする人も目立ち、崖から転落する危険のほか、エゾカンゾウの群生地などを踏み荒らす恐れもあるという。片岡理事長は「ラッコは神経質で警戒心が強く、岬周辺を安全な場所でない判断すれば姿を消してしまうかもしれない」とも懸念する。

このため、ガイドラインは①遊歩道の外に出ない②ドローンをラッコの上に飛ばさない③接近するために船を出さないの3本柱とした。浜中町の松本博町長は「ガイドラインは人命とラッコを守るルール。広く知らせたい」と話す。

エトピリカ基金は、ガイドラインを記載したリーフレット（三つ折りA4判カラー）も1200部制作。観光シーズンに霧多布岬などで配布する予定だ。

2021年2月19日（金）朝刊 社会 26P(記事は一部再編集しています)

① 野生動物や自然などが見られる観光地では、どのような問題が起こっていると考えられますか。記事を参考にして書いてみましょう。

② 記事に書かれている「ガイドライン」以外に、野生動物や自然を守りながら観光を続ける方法を考えてみましょう。